

## 特に良い点

### 乳・幼児部会で自主研修を行い、子どもの発達の理解を深めている

毎月のクラス会議のほか、2ヶ月に1回乳・幼児部会で保育の内容を高めるための学習、話し合いをしている。乳児部会では、今年度は子どもが遊んでいる写真を持ち寄り、体の動き、指先、足、腕、視線からその子の発達段階や気持ちを考察している。経験の浅い保育士も自分の考えを出しやすく、発達をより深く理解して、子どもを見る目を養うようにしている。幼児部会も異年齢での活動のテーマの他、年齢別発達の特徴と課題を理解し、興味を持って活動できるよう学習している。部会には担当を持っている非常勤職員も参加している。

### 子どもの様子を保護者に伝え、共通理解を築き保護者との信頼が厚い

乳児は連絡ノートで毎日保育園での様子を伝えている。幼児クラスになるとノートがなくなるので、活動の様子は写真付きで掲示している。お迎えの時には一人ひとりの名前が入った「特例延長保育日誌」を用いたり、担任が特に伝えたい日中の様子を当番に言付け、必ず一言伝えるようにしている。事前に保護者に月ごとのスケジュールを渡しているほか、クラス内に子どもにもわかるように週の予定をホワイトボードに書いてあり、親子での会話を促している。また、保育参加、運動会、こぼとっこ祭りなど保護者にも参加の機会を設け共通理解を図っている。

### 乳児は担当制を取り、家庭的な雰囲気大切にしている

乳児は一人ひとりの子どもに担当保育士を置き、生活の世話をしている。情緒の安定を基盤に自発的な活動に楽しめると、担当保育士との結びつきを大切にしている。毎日接する中で、子どもの気持ちに寄り添い、体調の変化も気づきやすく、子どもが安定して保育園で過ごせるようにしている。子どもの世話をする時には何をしているのかわかるように、どんなときも話しかけてから行動するなどきめ細かい対応を心がけている。保育園が第2の家庭となるよう家庭的な雰囲気をめざし、保護者からの信頼も厚い。

## さらなる改善が望まれる点

### 創り上げてきた職員育成制度とその取り組みが一層前進することを期待したい

事業所は、求める人材像を明確にし、キャリアパスと人材育成計画を整備し、年2回にわたる個人面接で育成上の課題を確認し、研修計画を策定・実践するなど、職員と組織の能力向上を重要な課題として位置づけ取り組んできた。その点は高く評価したい。しかし、職員アンケートでは、キャリアパスや育成計画の認知度、職員の意向や経験に基づき、成果と課題を反映した個人別研修計画を策定・実践する点での職員の評価は30%台と低い。職員からの意見聴取を含め、この乖離の原因を分析し、創り上げてきた職員育成の取り組みの一層の前進を期待したい。

### 安全確保、事故防止、衛生管理、防災防犯対策などの取り組みの成果と教訓が事業継続計画策定に活かされ、整備されることを期待したい

事業所は、登園やお迎え時の事故防止、事故発生時の対応、衛生管理、火災時、災害時、大規模地震発生時の対応、防犯対策など、各種のリスクを想定して、防止と対応のマニュアルを整備している。避難訓練は毎月実施している。毎月の保健会議や安全対策委員会でインシデント・アクシデントを集約し、再発防止や対策、マニュアルの見直しに取り組んでいる。その取り組みを「保育園のしおり」に詳しく掲載し、保護者に説明している。しかし、事業継続計画の策定までには至っていない。リスクの種類、程度を想定した事業継続計画の策定を期待したい。

### 内容の充実を伴った、新しい記録システムへの移行を期待したい

今年度からパソコンを増やし、月案・週案・日誌は自治体が斡旋するシステムを使うようになった。システムは当園の特徴である幼児異年齢集団での活動などを詳しく記録する上では不便なところもあるようだ。保護者に知らせる掲示物を作る、子ども一人ひとりの成長の記録である児童票の記入など、職員には多くの記録作業がある。子どもの姿を総合的に記録するためにどんなシステムが良いか、フィードバックすることによりシステムが改善され、なおかつ職員の負担軽減になるよう、様々な記録が連携されるように、今後を期待する。

## 特に力を入れている取り組み

### 幼児クラスは月ごとのテーマを設け、各領域を楽しく経験させる保育を展開している

幼児の異年齢混合クラスでは、毎月メインのテーマを決めている。例えば5月の「交通」では散歩で駅の構内を見学させてもらい、室内には交通に関する絵本や交通標識のカードを用意し、子どもが自ら調べてみようという気持ちを育て、製作活動では段ボールで電車を作って電車ごっこで遊んでいる。11・12月は「動物」で、動物の特徴・鳴き声・数え方等違いがあることを知り、動物を描いたり粘土製作、表現遊びと展開させている。年齢や関心の度合いにより同じテーマでも多方面から取り組めるように考えている。

### 畑活動・調理活動に関連させて、食についての関心を深める取り組みをしている

畑での栽培活動や調理活動に取り組んでおり、それらに関連させることを重視した。毎年大根の栽培とたくあん作りはおこなっていたが、今年は大根の種を蒔くところから経験させた。大根の抜き方を教えてもらい、今までは保育士がやっていた洗う作業を子どもたちがして、たくあんを漬けた。ピザに使うことを考えて夏野菜を栽培したり、芋掘りのサツマイモを焼き芋だけでなく幼児クラスでのおやつ作りに生かしている。味噌作りに使う大豆の一部は、枝豆の収穫をした時に少しとっておいたものを乾燥させ大豆にし、変化を見させるなど食への関心を深めている。

### 地域の保育ニーズを受け止め、専門性を生かした地域貢献活動に、旺盛に取り組んでいる

園長会などで把握した地域の保育ニーズを受けとめ、地域貢献活動に旺盛に取り組んでいる。栄養士による離乳食やおやつの話、保育士による絵本紹介や読み聞かせをする「すくすく講座」、ベビーマッサージなどを指導する「のびのびサークル」、体験保育、保育園見学など多彩に取り組んでいる。参加者から要望を聞き、新しい事業にも取り組んでいる。これらの取り組みは年間10回発行する「子育てニュース」で知らせている。また、このニュースには参加者の感想や水分補給、おやつ、絵本などの子育て情報を掲載している。

